

維新 四面楚歌

橋下氏の慰安婦・風俗発言

旧日本軍の従軍慰安婦などをめぐる橋下徹共同代表の一連の発言で、日本維新の会が四面楚歌の状況だ。7月の参院選を見据え、野党は維新批判を展開し、与党も距離を置き始めた。連携するより、厳しい姿勢を示す方が得策との空気が政界に広がっている。

▼1面参照

みんな 選挙協力解消も
民主 「厳しく対峙する」

2013 参院選

「このままだと維新と一緒に沈む」。16日のみんなの党の参院議員総会。渡辺喜美代表は維新との連携を見直す考えを改めて表明した。渡辺氏は前日、



女性議員も怒り

記者会見を開き、日本維新の会の橋下徹共同代表の発言に抗議する女性国会議員＝16日午前、東京・永田町、長島一浩撮影

維新との選挙協力解消に言及。維新に近い党幹部も「維新とは一線を画すと言わざるを得ない」と述べ、両党の関係は急激に冷え込んだ。

民主党も批判を強める。前原グループの16日の会合

で、前原誠司元相は「厳しく対峙しないといけない」と強調。細野豪志幹事長も16日の記者会見で「極右政党だと認めたようにしか見えない」と語った。

「歴史認識で維新と自民党は酷似している」(幹部)として、維新と自民党をひとくくりにして攻め立てる戦略を描く。

国会内の一室には民主、

公明 支持母体に不信感 自民 「一体」批判を警戒

生活、共産、社民、みどりの風、無所属の女性議員11人が集まって記者会見を開いた。社民党の福岡瑞穂党首は「男性の性欲解消のために、なぜ生身の人間が性の道具になるのか」。共産党の田村智子氏は「安倍晋三首相の侵略戦争を否定するかのような発言が呼び水になった」と語った。

維新への批判は与党にも飛び火。公明党の山口那津男代表は16日の党中央

幹事会で「女性の人格人権を著しく傷つけるものだ。有権者の良識をききつぱり示そう」と、批判のポルテージを上げた。公明党と維新は昨年の衆院選で小選挙区で競合しない形で選挙協力をしたが、党関係者は「創価学会婦人部を中心に橋下氏の人権性に対する疑問が広がっている」と指摘した。

この批判を招かないよう注意を払う。安倍首相は15日の参院予算委員会で「安倍内閣、自民党の立場とは全く違う発言だ」と答弁。大島派の大島理森会長は16日の派閥会合で「怒りを感じる。党代表である以上、個人的発言というわけにはいかない」と批判した。

橋下氏は16日、維新の国会議員団に「収束に努力します」とのメールを送付した。議員団は「女性の基本的人権を尊重するのが党の基本方針だ」とする見解を発表。米軍に風俗業の活用を訴えた発言についても「不適切であったと認識しており、一層の丁寧な説明が必要と考える」とした。

改正2法案 維新が提出

改正2法案 維新が提出

日本維新の会は16日、衆議院の定数を144人減らす公職選挙法改正案と、国民投票ができる年齢を、通常の選挙に先行して「18歳以上」とする国民投票法改正案を国会に提出した。

維新は衆院定数の3割削減が公約。今回の改正案では小選挙区を60人、比例を84人それぞれ減らす。

国民投票法は投票年齢を「18歳以上」としたのに伴い、選挙権を20歳以上としている公職選挙法や成人年齢を定めた民法の改正を検討するとしているが、見直し作業は進んでいない。